

④指導過程（まとめる段階の前半部分を中心に）

階	学習活動・内容	時	・指導上の留意点 ※テーマに迫る手立て
つかむ	1 課題をつかみ，見通しを持つ。	5	・面積を求める場合の分ける，合わせるなどの操作活動や，既習の面積の公式など，前時までの学習を基に，求め方の操作順序や立式方法についての見通しを持たせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     三角形の面積の求め方を考える                 </div>		
解決する	2 三角形の面積を求める。 ・等積変形や倍積変形で ・直角三角形を利用して	10	・T. T. の分担を決め，個別指導を充実させることから，一人一人の児童に自分の考えを持たせる。 ・グループ学習の場合も，内容の確認や，相違点を明確にするなどの援助を，計画的に効率良く行う。
	3 面積の求め方を発表し合う。	10	
まとめる	4 より簡単な面積の求め方について話し合う。 ・長方形に変えて ・平行四辺形に変えて  ・方眼紙の数を数えて ・既習の公式を用いて	10	※求め方の操作手順が少ないことや，短い式によって表されていることを比較の視点とする。 ※グループの中でお互いに，自分と他の考え方との違いを良く理解して，認め合ってから，比較の視点を基に，より簡単な考えを客観的に話し合って選ぶようにさせる。 ※選んだ考え方と自分の考え方が違う場合，その違いを確認して，良い点を自分の考えに取り入れる。 ・いくつかの代表的な考え方の発表によりまとめる。
	5 面積の求め方をまとめる。	5	
深める	6 類似の問題を解く。	5	※次時の面積の公式の理解につながるように，グループ及び全体のまとめで発表された考え方の中で，最も分かり易かった式を使って解決させる。

⑤授業の考察

話し合っ、考えを比べる視点を分かり易く示したことで、各グループとも、より良い考えを持つことができた。ただ、話し合う過程で、特に下位の児童は、自分の考えを発表することはできても、理由を明確にして、より良い考えを選ぶ活動に積極的に参加することが少なかった。それでもほとんどの児童が、自分の考えに固執しないで、他の考えを受け入れようとしたことと、選んだ考えと自分の考えの相違点については理解が得られ、見直せたことは、授業のねらいに沿っていた。

この授業は、面積の公式を導くため、様々な求め方を出させることが重要であり、いくつかの考えの中からグループでは、簡潔さを基準にして1つの考えを選ばせたが、学級全体では、オープンエンドなまとめにした。いわゆる「練り上げ」からのまとめは、「数理のよさ」から簡単、明瞭などを判断材料にして行われる場合が多いが、単元や本時のねらいに応じて考える必要がある。

T. T. による指導・援助は効果的に行われた。課題解決の見通しに戸惑いが見られた児童も、適切な対応により自力解決できたことで、その後のグループ活動に自信を持って取り組めた。